

厚生労働省「食品安全情報」ホームページの変更について

食品安全情報ホームページについて、見やすさの観点から以下の改善を行う予定。

新しいホームページで3月中旬からの運用を目指し、作業を進めている。

※今回は見やすさの観点からの改善、ホームページの掲載内容に関する研究会の指摘についても、別途改善を目指して検討を進める。

今回の改善点

1. 視認性の向上

- ・ 背景の白に対して水色の文字を紺色に変更するなど、よりコントラストの強調できる色に変更
- ・ リンク先について色分けのほか、囲み文字や下線を活用

2. 情報量の適正化

- ・ 食品安全情報ページについて、ほとんどスクロールすること無しに項目が確認できるよう、情報量を削減し適正化

(改善後の画面(予定))

Food Safety Information

→ GO TO ENGLISH

食品安全情報

～食品の安全性の確保を通じた国民の健康の保護のために～

情報検索画面へ

このホームページの探し方

食品の安全に関するQ&A

O-157、牛海綿状脳症(BSE)、
遺伝子組換え食品、アレルギー
物質を含む食品の表示など

食品関係用語集

報道発表資料一覧

パブリックコメント

御意見を募集しています！

審議会・検討会

- 薬事・食品衛生審議会
- 審議会等委員名簿
- 健康食品に係る制度のあり方に関する検討会
- 食の安全に関するリスクコミュニケーションの在り方に関する研究会

消費者向け情報

事業者向け情報

法令等検索

関連サイト(国内・海外)

食品の安全に関する行政の取組
や情報提供の在り方についての
御意見を、厚生労働省食品安全部
企画情報課あて下記メールアドレス
又は FAXにてお寄せください。
メールアドレス：
syokucommunication@mhlw.go.jp
FAX: 03-3503-7965



最新のお知らせ(国立医薬品食品衛生研究所ホームページへリンク)

□更新情報 (最新の10件を掲載)

→更新情報一覧

- ・04/11/29 E型肝炎ウイルス感染事例について
- ・04/11/19 急性の脳症を疑う事案の発生について
- ・04/11/01 死亡牛BSE検査で感染が確認された牛における異常プリオンたん白質の蓄積に関する調査研究結果について
- ・04/10/22 急性の脳症を疑う事案の発生について
- ・04/10/01 平成15年度輸入米の検査結果について
- ・04/09/16 米から有機ヒ素化合物が検出されたという茨城県の発表について(Q&A)
- ・04/07/30 ヒジキ中のヒ素に関するQ&A
- ・04/06/18 シンフィツム(いわゆるコンフリー)及びこれを含む食品の取り扱いについて(その2)
- ・04/06/17 中国産冷凍ほうれんそうの輸入自粛解除について
- ・04/06/14 シンフィツム(いわゆるコンフリー)及びこれを含む食品の取り扱いについて

食品の安全に関するリスクコミュニケーションの取組

意見交換会、新たな規制の設定などの際に行う意見聴取(いわゆるパブリック・コメント)、
ホームページによる情報発信など

意見交換会(開催案内、開催結果)

分野別施策

- 食中毒
- 食品添加物
- 食品残留農薬
- 食品中の化学物質
水銀(魚介類等)、カドミウム、ダイオキシンなど
- 器具・容器包装、おもちゃ、洗浄剤
- 牛海綿状脳症(BSE)
- 遺伝子組換え食品
- 健康食品
- 食品表示
- 輸入食品監視
- その他
高病原性鳥インフルエンザ、食品の安全確保に関する取組など

(現行の画面)

Food Safety Information

→ GO TO ENGLISH

食品安全情報

～食品の安全性の確保を通じた国民の健康の保護のために～



[このホームページの探し方](#)

最新のお知らせ

最新の情報をお知らせします。

[食品安全関係法令の改正について](#)

[パブリックコメント\(ご意見を募集しています!\)](#)

[意見交換会\(開催案内、開催結果\)](#)

[審議会・検討会](#)

薬事・食品衛生審議会
審議会等名簿

食品の表示に関する共同会議
健康食品に係る制度のあり方に関する検討会

[Q&Aコーナー](#)

緊急情報

- 04/12/14 米から有機ヒ素化合物フェニルメチルアルシ酸(PMAA)が検出されたという発表について
- 04/11/29 E型肝炎ウイルス感染事例について
- 04/11/19 急性の脳症を疑う事案の発生について
- 04/11/01 死亡牛BSE検査で感染が確認された牛における異常プリオンたん白質の蓄積に関する調査研究結果について
- 04/10/22 急性の脳症を疑う事案の発生について
- 04/10/01 平成15年度輸入米の検査結果について
- 04/09/16 米から有機ヒ素化合物が検出されたという茨城県の発表について(Q&A)
- 04/07/30 ヒジキ中のヒ素に関するQ&A
- 04/06/18 シンフィツム(いわゆるコンフリー)及びこれを含む食品の取り扱いについて(その2)
- 04/06/17 中国産冷凍ほうれんそうの輸入自粛解除について
- 04/06/14 シンフィツム(いわゆるコンフリー)及びこれを含む食品の取り扱いについて
- 04/03/12 食鳥検査における高病原性鳥インフルエンザ・スクリーニング検査の実施について
- 03/12/22 都道府県等から報告されたいわゆる健康食品に係る健康被害事例について(お知らせ)

[情報検索画面へ](#)

[法令等検索](#)

[食品関係用語集](#)

[関連サイト\(国内・海外\)](#)

食品の安全性に関する行政の取り組みや情報提供のあり方についてのご意見があれば、下記メールアドレスまたはFAXにてお寄せ下さい。
メール:
svokucommunication@mhlw.go.jp
FAX:03-3503-7965

分野別施策

- 牛海綿状脳症(BSE)
- 輸入食品監視
- 食品添加物
- 残留農薬
- その他
- 健康食品
- 食中毒
- 器具・容器包装、おもちゃ、洗浄剤
- 化学物質
- 食品表示
- 遺伝子組換え食品
- リスクコミュニケーション

[食品の安全確保に関する取組](#) [食品中に残留する農薬等のポジティブリスト制度](#) [高病原性鳥インフルエンザに関する周知徹底について](#) [食育シンポジウム](#)

新着情報

- 05/01/24 輸入食品に対する検査命令の実施について(オーストラリア産とうもろこし)
- 05/01/13 第3回食品の安全に関するリスクコミュニケーションの在り方に関する研究会資料
- 04/11/26 第2回食品の安全に関するリスクコミュニケーションの在り方に関する研究会議事録
- 04/11/05 第1回食品の安全に関するリスクコミュニケーションの在り方に関する研究会議事録
- 05/01/11 食品安全委員会への食品健康影響評価の依頼について

[報道発表資料一覧を見る](#)
[トピックス一覧を見る](#)

トピックス

- 04/12/27 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会資料(平成16年12月27日開催分)

- 04/12/16 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会の開催について
- 04/10/15 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会議事録(平成16年10月15日開催分)
- 04/10/15 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会資料(平成16年10月15日開催分)
- 04/10/28「新特定保健用食品制度に関する基準等策定のための行政研究」中間とりまとめについて
- 04/09/30 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会の開催について
- 04/07/05 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会議事録(平成16年7月5日開催分)
- 04/06/16 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会議事録(平成16年6月16日開催分)
- 04/07/30「Q熱コクシエラの鶏卵からの検出に関する研究」について
- 04/07/14「健康食品」の安全性・有効性情報について
- 04/06/16 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会資料(平成16年6月16日分)
- 04/07/05 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会の開催について
- 04/04/28 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会議事録(平成16年4月28日開催分)
- 04/06/09「健康食品」に係る今後の制度のあり方について(提言)
- 薬事・食品衛生審議会 食品衛生分科会の開催について
- 食品衛生法上の登録検査機関について
- 04/03/16 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会議事録(平成16年3月16日開催分)
- 04/05/14 第13回「健康食品」に係る制度のあり方に関する検討会の開催について
- 03/10/31 平成14年度畜水産食品の残留物質モニタリング検査結果について
- 03/09/05「サウロバス・アンドロジナス(別名アマメンバ)を含む粉末剤、錠剤等の剤形の加工食品」の販売禁止について(PDF:510KB)
- クローン技術を利用した食品について
- 中国製ダイエット用健康食品等関連情報

消費者向け情報

事業者向け情報

リスクコミュニケーションの在り方に関する 研究会報告（中間とりまとめ）（骨子素案）

1. はじめに

- ## 2. リスクコミュニケーションの取組の現状について の分析評価
- (1) 意見交換会
 - (2) ホームページ
 - (3) リスクコミュニケーターへのトレーニング
 - (4) その他

3. 今後改善すべき事項

4. おわりに

(参考資料)

○事例研究

「病原性大腸菌O157集団食中毒事件への対応について
の考察」

○チェックリスト など

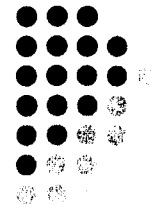
食の安全を求めて

ーコミュニケーション技法ー

甲子園大学人間文化学部
金川智恵

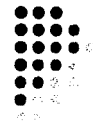
食の安全を求めて -コミュニケーション技法-

甲子園大学人間文化学部
金川智恵



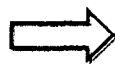
Copyright:NPO Risk Communication Research Center

概念の定義 -「危険」にまつわる誤解・誤認-



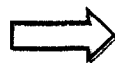
危険 ↔ 安全

クライシス



実際に発生した事故や災害がもたらす危険性

リスク



生命の安全や健康、資産や環境に、危険や傷害など望ましくない事象を発生させる可能性・確率、ないしは期待損失



コミュニケーションの3様態

I. 説得的コミュニケーション

危険性回避への態度変容を目的として行うコミュニケーション。

II. クライシスコミュニケーション

実際に災害が発生した後、関係者に関連事項を伝達する、
災害マネジメントの一環としてのコミュニケーション。
現実に発生した災害、即ち、事実に基礎を置いたコミュニケーション

III. リスクコミュニケーション

対象の持つ危険性や障害の可能性について、どの程度なら受け入れられるのかについて、関係者がともに考え、合意形成を図るために行うコミュニケーション。



リスクコミュニケーター養成プログラムの構成

1. 講義

- リスクコミュニケーションの背後にある思想や価値観について
- コンテンツ・プレゼンテーションについて
- リスク分析におけるリスクコミュニケーションの位置づけ
- 専門家を纏める技術

2. 実習（+即時的フィードバック）

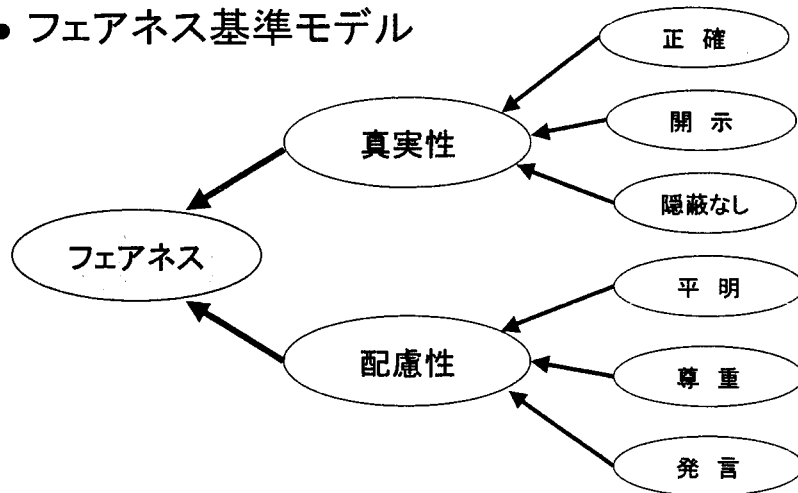
- コンテンツ：プレス発表用の原稿作成
- プレゼンテーション：プレス発表のrole-playing

3. 実習の効果性維持のための規範形成

- リスクコミュニケーターの現場でのスムーズな活躍を可能にする
組織作り・規範作り

メッセージをフェアにするもの

● フェアネス基準モデル



効果的なリスクコミュニケーション： 内容編① フェアネス真実性

1. 正確性

- ☆ コミュニケートする情報（リスクの種類、程度、被害の大きさ等）が科学的に正確であるか、矛盾はないか、リスクを測定したり評価したのは誰か等を慎重に検討すること
- ☆ 内容が、論理的、時間的に一貫していること、また人を超えて一貫していること。
- ☆ テーマを明確に。伝えるべき内容が多いときには複数回に分けてリリースする。

2. 開示

- ☆ 要求された情報は可能な限り提供する。ただし、セキュリティ、特許、プライバシーに関する情報はこの限りではない。
- ☆ 役に立つと思われる情報は積極的に提供。リスク情報は先に提供した方が信頼感を増す。

3. 隠蔽感のなさ

- ☆ 情報発信者にとって都合のよい情報だけでなく、具合の悪い情報も、リスクはリスクとして正々堂々と述べる。このフェアさが情報の受け手に対する信頼性獲得の鍵となる。
- ☆ 嘘は絶対に言わない。嘘は必ずばれる。ばれた後の修復は大変で、それまで培った信頼性は一挙に覆る。
- ☆ クイックレスポンスが重要。発表に時間がかかりすぎると、事実を隠しているのではと疑われる。どうしても時間がかかるときは、早期に会見を開いた上で、送れている理由を明示して詫言、猶予を請うことが望ましい。

効果的なリスクコミュニケーション： 内容編② フェアネス配慮性



1. 平明さ

- ☆素人に通じるように、説明はやさしい表現に。わかりやすい比喻も有効。
- ☆リスクを正しく伝えるということは、専門家が、正確で科学的な表現をすることと決して同じではない。

2. 尊重

- ☆情報の受け手の関心や価値観に則った内容であること。相手のおかれた状況や立場、性格、知識等を理解した上で言葉を選ぶこと。
- ☆相手のところに訴えること。受け手の疑問や不安に訴える言葉が、簡潔な表現で送り手から発せられると、受け手は強い感情的共感を示す。

3. 発言の機会

- ☆質問や意見の発言機会が与えられ、具体的問い合わせ先などが明示されている。

効果的なリスクコミュニケーション： 内容編 情報のリスク管理



1. 誤った情報を流された場合は必ず指摘すること

- ☆受け手は意図的、或いは無意識的に誤った情報と流すことがある。そのときは必ず誤りを指摘して、訂正を求めること。

2. 二者択一的な質問には答えないこと

- ☆リスクコミュニケーションで論じられる対象は、多くの場合、不確定性に満ちていて、YES/NOで答えられないことが多い。

3. 仮定の質問には答えないこと

- ☆不確定な事象であっても、そこに勝手な仮定を置いてしまえば、たいていの問題は一定の方向に誘導されてしまう可能性がある。

4. 誘導尋問にうっかり乗らないこと

5. 噂や伝聞に基づく話にのらないこと

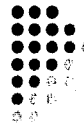
- ☆このような場合、“噂は無責任としますが本当ですね”等というように、質問者を諭す形で軽くあしらうのがよい。

効果的なリスクコミュニケーション： 表現編① 表現の仕方



1. 大きな声で力強く明瞭にゆっくりと
2. 顔をあげ、相手と視線を合わせること
3. 相手に共感的な態度をとること
4. 感情的にならないこと
5. 服装は清潔に
6. 表現は簡潔に。条件文の多用や二重否定は避ける。ただし重要な点は繰り返し述べ、誤解がないようにすること。
7. 分からないときはごまかさない。分からない理由をはっきり述べ、分かった時点で追加の説明をする。
8. プレゼンは論争ではない。目的は相手に打ち勝つことではなく、問題を理解し、信頼を得ること、そして受け手のためになる決断を支援すること。相手に勝ちすぎず、負けすぎず、プレゼンの過程をコントロールする

効果的なリスクコミュニケーション： 表現編② 場の運営



1. 一度に話す相手は一人だけに限ること
☆複数の者が同時に話しかけてきたときは、一方を制して待たせる。
2. 主導権は主催者が握ること
☆リスクコミュニケーションは、共考の場ではあるが、場の主導権は送り手側で確保するように勤めるべき。
3. 会場では壁を背にして空間をあけないこと
☆相手方が背後に回ると不安感が出て答えられなくなることが多い。
4. 壇上に上がらない
☆平面でない部屋なら、むしろ相手を壇上に上げるほうがよい。
5. 事前のリハーサルをせよ
☆鏡に向かって声を出しながら練習するのが有効。

リスクコミュニケーションを支えるシステム作り ①危機管理システムの構築



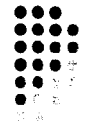
1. リスクマネジメントのチームを作っておくこと

☆広報担当者はプレゼンの専門家であって、リスクの専門家ではない。広報担当者を支えるリスクマの専門家から成るリスクマネジメントのチームを日頃から用意しておく必要がある。プレゼンテーションのコンテンツについてはこのチームが決定する。

2. どのようなリスクが発生するか、日頃から点検しておく

☆日本人は日頃から安全な社会に馴れ、危機意識が欠如しているから、この点には特に要注意。

リスクコミュニケーションを支えるシステム作り ②広報はプロの仕事



1. プレゼンに際しては、原則として訓練を受けた専門家が対応すること

☆大臣や社長などの責任者がやむなくプレゼンをするときは、事前にプロの指導のもとにリハーサルをしておくこと。

2. 広報の窓口は1本に絞ること

☆現場への直接の取材は断り、原則として広報を通すように徹底する。その代わり、広報は、面倒をいとわず必ず対応すること。

☆相手方が背後に回ると不安感が出て答えられなくなることが多い。

リスクコミュニケーションを支えるシステム作り ③ステークホルダーとの連携



1. マスメディアとの良好な関係の維持

☆抱き込むのではなく、敵対するでもない自然な関係を作ること。

☆災害時だけでなく、普段から定例の会見を設定し、些細なことでもリリースし、情報を隠さないという姿勢を見せることが重要。

2. 地域住民や市民団体との日頃からのパートナーシップ

☆地域住民とは日頃から関係を作っておくこと。この何気ない日常的な関係が信頼関係のものになる。

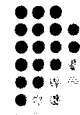
3. 信頼できる専門組織や機関と連帯すること

☆専門知識をもつプロ集団はいざというとき大きな力となる。常時相談に乗ってもらえる関係を日頃から作っておくこと。

4. 全てのステークホルダーへの連絡をもらさないように

☆関係者への連絡に漏れがないよう、連絡先のリストを完備しておくこと。また連絡はできる限り迅速にすること。

リスクコミュニケーションを支える価値観 従来の価値観からの脱却



1. 中心的価値は国民

2. 信頼性の獲得

☆信頼は、情報公開を含む、フェアな政策決定過程とそれを実行する能力への評価によって醸成される。

リスクコミュニケーションの目指す先は？

双方向的共考過程
リスクコミュニケーションの特性



ステークホルダー間の信頼性



リスクに関する
合意形成